

令和4年度日本博主催・共催型プロジェクト
日本博を契機とした障害者の文化芸術共同創造プロジェクト
Co-Creation for ALL Peoples

国際フォーラム
International Forum

アジアにおける 障害のある人の 文化芸術のいま

“Arts and Culture of Disabled People in Asia 2022”



東南アジア7か国で障害のある人の文化
芸術活動の推進に取り組む専門家・実践
家をお呼びして、世界的なパンデミック
を経験した各国の現状報告や、今後の取
り組みの展望を発信します。

2022/11/ 5 sat ~ 6 sun

オンライン開催 (Youtube配信)

主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、
一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会
共催：日本博を契機とした障害者の
文化芸術共同創造プロジェクト実行委員会
協力：障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク



当日配信用 (1日目)

当日配信用 (2日目)

事前配信プレゼンテーション

英語音声・字幕版
はこちらから⇒
English
audio/subtitles



当日配信用
(1日目)

当日配信用
(2日目)

事前配信
プレゼンテーション

※視聴にあたっての注意事項
当日の配信および事前配信映像（各登壇者によるプレゼンテーション）は、Youtube上
で、日本語音声・字幕、および英語音声・字幕それぞれのURLから配信されます。ご希望
の言語からご視聴ください。



心を、うごかそう。
Art Moves Us All.



Day1

11/5

13:00
~15:00

Session 1 デジタルカルチャーと文化芸術

digital age and culture



ソニー・オン
(カンボジア)

エピックアーツ・カンボジア代表



スジュード・ダルタント
(インドネシア)

インドネシア国立美術館キュレーター、
インドネシア国立ジョグジャカルタ芸術大学講師



山田 創
(日本)

滋賀県立美術館 学芸員

Day2

11/6

13:00
~15:00

Session 2 コミュニティの中にあるアート

community and participation



スエブソン・
サンワチラピバン
(タイ)

バンコク芸術文化センター
展示部門責任者



ドロレス・チェン
(フィリピン)

センター・フォー・ポシビリティーズ・
ファウンデーション創設者兼事務局長



アウン・ミン
(ミャンマー)

アートセラピスト・映画監督

15:00
~17:00

Session 3 ソーシャルアクションとしての文化実践

philosophy and social action



ロザリーナ・アレキサンダー・
マッケイ
(タイ)

レインボールーム・
ファンデーション代表



ミスダ・フアンスッコ
(ラオス)

インディペンデントキュレーター、
ソーシャルワーカー



ヴァレリー・ジャケス
(マレーシア)

マネージングディレクター、
臨床心理士

各セッションの進行
(120分)

▶各登壇者による
プレゼンテーション
(約15分×3名)

▶パネルトーク
(約60分)



ソニー・オン (カンボジア)
エピックアーツ・カンボジア代表

カンボジアのカンポットにあるエピックアーツのカントリーディレクター。芸術を通じて障害のある若者と障害のない若者を支援し、エンパワメントすると同時に、経営や権利擁護にも従事。インクルーシブな社会にむけた政策づくりのため、芸術文化、教育、障害者の権利、インクルージョンおよび政府部門の分野における政策立案者との関係の構築にも取り組む。2008年、アジアにおけるインクルーシブアーツの最初のネットワークとして注目を浴びた「アジアインクルーシブアーツフェスティバル」を主催者の1人として実施。

カンボジア・リビング・アーツ(CLA)のクリエイティブ・リーダーシップ・プログラムに参加し、2015年にはCLAの5人のリビング・アーツ・フェローの1人として認められる。その間、文化におけるリーダーシップと持続可能性についての専門知識を習熟する。また、英国を拠点とするアーツ・コミッション・プログラムであるアンリミテッドでアーツ・アドミニストレーターとして勤務。2017年米国内務省の国際ビジター・リーダーシップ・プログラム「芸術を通じた社会変革の促進」に選ばれた数少ないフェローの1人であり、全米のアートコミュニティとも交流を持ち、2018年のイェール・グリーンバーグ・ワールド・フェローシップのファイナリストでもある。



スジュッド・ダルタント
(インドネシア)

インドネシア国立美術館キュレーター、
インドネシア国立ジョグジャカルタ芸術大学講師

キュレーター、研究者、アトライター、インドネシア国立ジョグジャカルタ芸術大学(ISI) ビジュアルアーツ学部アートマネジメント学科の講師であり、インドネシアの美術史、文化研究、記号論、芸術評論および学芸員過程を指導。現在まで、インドネシア国立美術館のキュレーター委員会のメンバーであり、学際的な分野や作品(芸術、科学、技術)に関心を持つ。現在、ガジャマダ大学(UGM)の博士課程のパフォーミングアートとビジュアルアート研究(PSPR)でアートとブロックチェーン技術を研究。共同創設者でもあるアルスカラ・プロジェクトを運営し、積極的にアートプロジェクトを創作。アートと障害に関する活動では、ジョグジャ・ディスアビリティ・アーツ(JDA)ファンデーションのメンバーであり、アート・障害フォーラムのキュレーターおよびスピーカーとして積極的に活動。



山田 創 (日本)
滋賀県立美術館 学芸員

2017年からボーダレス・アートミュージアムNO-MA学芸員、2022年から滋賀県立美術館学芸員(担当はアール・ブリュット)。「障害者福祉の現場で生まれる美術的なモノ・行為・関係性」、「自閉症者の美術的表現」、「障害者と美術鑑賞の関係」、「社会課題とキュレーション」などに関心を持ち、研究、執筆、展覧会づくり、場作りを行う。近年の担当展に「反復と平和——日々、わたしを繰り返す」展(2022、NO-MA)、「79億の他人——この星に住むすべての「わたし」へ」展(2021、NO-MA)、「Co-LAB #1,2,3」展(2020、NO-MA)、「忘れようとしても、思い出せない」展(2019、NO-MA)など。

Session 2 コミュニティの中にあるアート

community and participation



スエブソン・サンワチラピバン
(タイ)

バンコク芸術文化センター展示部門責任者

コンという略称で知られる、バンコク芸術文化センター展示部門責任者。チェンマイ大学を絵画で卒業後、2007年にパリのヴァンセンヌ・サン・ドニ大学で現代美術とニューメディアの修士号を取得。タイの現代アートシーンで多くの役割を果たす。アーティスト、美術学者として活躍する一方、インディペンデント・キュレーター、研究者としても活動。10年間にわたる客員教授としての活動、大学のアートセンターの運営も経験。また、2010年から2013年にかけて障害者ヘルスプロモーション協会の委員に任命され、人間の発達におけるアートの役割に関心を抱く。またアール・ブリュットに興味を持ち、バンコク芸術文化センターでタイと日本のアール・ブリュットをキュレーション。アーティストとしては、世界中のあらゆる場所で自分が直接経験したこと、あるいは興味を持ったことを題材に作品を制作する。



ドロレス・チェン
(フィリピン)

センター・フォー・ポシビリティーズ・
ファンデーション創設者兼事務局長

広告、執筆、および出版において40年の経験を持つ総合的なマーケティングコミュニケーション専門家。2006年、センター・フォー・ポシビリティーズ・ファンデーションを設立し、彼女と同じくスペシャルニーズを持った子供の親たちに、どんな障害があってもよりよく育て、サポートし、能力を高められるような支援を推進。その情熱で、山岳州の人里離れた高地に特別支援教育センターを設立し、ブラカン州ノルザガライの第5級自治体に2つ目のセンターを設立。また、障害のある子どもや個人のため、視覚芸術、音楽芸術、執筆、映画、スポーツにおける革新的で独創的なプログラム、活動、競技会の先駆者でもある。



アウン・ミン
(ミャンマー)

アートセラピスト・映画監督

1964年ヤンゴン生まれ。ヤンゴン医科大学を卒業後、30年近く精神科医として勤務。2014年以来、長編映画「髭の生えた男 (Man With The Beard)」(2022)をリリースしたばかりのインディペンデントアーティストグループ「テン・メン」の非公式リーダーを務める傍ら、臨床心理士である妻の患者とのアートセラピーなどの社会活動も続ける。2015年、オープン・ソサエティ・ファンデーションとのコミュニティに根差したプログラムパートナーシップとしてアウン・メンタルヘルス・イニシアチブ(Aung MHI)を開始。2021年にはWHOから地域精神医療の良質な実践モデルと認定を受ける。2017年、ヤンゴンの事務局ビルで、これらのプロジェクトから生まれた作品による初の展覧会を開催。以来、ヤンゴンとミャンマー全土の民族地域の両方でさまざまなアートセラピーとメンタルヘルストレーニングを紹介・実施するとともに、計4回の展覧会を開催してきた。

Session 3 ソーシャルアクションとしての文化実践 philosophy and social action



**ロザリーナ・アレキサンダー・
マッケイ** (タイ)

レインボールーム・ファウンデーション代表

バンコクのアサンプション大学(ABAC)で経営管理学の学士号を取得した後、編集者および営業責任者としてオグルヴィ・アンド・メイザー(タイ)に入社。またチュラロンコン大学でマスコミュニケーションを学び、ホスピタリティ業界の人材開発分野にも参画。

第1子出産後はフルタイムの母親として、タイで最初の乳児保育のサポートグループに参加。第2子出産後は、タイで最初のスペシャルニーズの啓発団体レインボールーム・ファンデーションを共同設立。スペシャルニーズのある子どもの家族の権利の擁護者でありながら、講演、翻訳、執筆も行き、ゴードン・トレーニング・インターナショナルの効果的ペアレントトレーニングプログラムのインストラクターも務める。現在は夫・子どもとともにバンコク在住。



ミスーダ・フーアンスッコ
(ラオス)

インディペンデントキュレーター、
ソーシャルワーカー

メコン・アート・イニシアチブ(MAI)の創設者および、ラオス・ギャラリーのマネージャー。1975年にラオスが独立し、1985年に両親がラオスで最初のアートギャラリーであるラオス・ギャラリーを設立したことでアートに目覚める。2013年シンガポール・ピエンナーレの共同キュレーター、2010年福岡アジア美術トリエンナーレのラオス人アーティスト審査員、2012年、2014年シンガポールのシグネチャー・アート・プライズのラオス人アーティスト審査員を務める。2016年には台湾文化省において、東南アジアと台湾の間の芸術文化活動を促進するため東南アジア諮問委員会メンバーに就任。



ヴァレリー・ジャック
(マレーシア)

マネージングディレクター、臨床心理士

臨床およびコミュニティでの治療に加えて、組織の世界に足を踏み入れた最初のマレーシア人臨床心理士。アテネオ・デ・マニラ大学(フィリピン)で臨床心理学の博士号を取得。30年にわたる活動の中で、マレーシアとアジア太平洋地域の、地元企業と多国籍企業を経験。1999年、あらゆる分野の人々を治療するツールとしてアートを用いて、クリエイティブな世界に足を踏み入れる。言葉でのコミュニケーションが難しい人の発達や成長において、アートが効果的なアプローチであることが分かり、今では、アート以外にも、箱庭療法、クレイセラピー、音楽運動療法などを活用している。